

2021年度 個人研究実績・成果報告書

2022年 4月 25日

所属	商経学部	職名	専任講師	氏名	小野 聡
研究課題	リスク社会の風土論とゲーミング・シミュレーション【前年からの継続】 -シリアスゲームにおける「棋譜」は参加型意思決定に資する情報を生産しうるか?-				
研究キーワード	ゲーミング、市民参加、協働、風土論	当年度計画に対する達成度	3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した		
関連するSDGs項目	11.住み続けられるまちづくりを	7.エネルギーをみんなにそしてクリーンに	17.パートナーシップで目標を達成しよう	該当なし	

1. 研究成果の概要

本研究の進捗は以下の2点に要約される。

第一は前年より続けてきた、人工知能を介したリスク情報提供に関する調査の分析である。分析結果は国際会議およびコロキウムにおいて発表されており、論文投稿の準備をしているところである。第二は上記調査を踏まえた、災害リスク下における人々の避難行動に関する調査準備の進捗及び実施である。先述の調査における分析の結果を踏まえ、人々が顕在化していないリスク情報に対してどのように振る舞うのかを調査するための、場面想定法によるアンケート調査を設計した。本調査は2022年4月現在実施前最終調整に入っており、調査結果については本年実施される国際会議及び国内学会において報告される予定である。

二点目で説明した調査は、与えられた条件において選択肢から行動を決定するシミュレーション・ゲーミングの方式を取り、その記録（棋譜）を踏まえて統計解析・シミュレーションが行われる。この作業については2021年度に予定されていたものであるが、2022年度への繰越課題となった。

2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）

【学会発表等】

Satoru ONO (2021) “Survey Report on the Relationship between Risk and Reality for the Age of Artificial Intelligence”, Sustainability Research & Innovation Congress 2021, Online and onsite in Brisbane（査読無）

Satoru ONO (2021) “Trust in “intangible objects”? Discussion from Japanese Context”, Research Colloquium: “East Asian Holism and Cultural Dimension of the Pandemic in the Anthropocene”, Online（査読無）

小野聡 (2021) 「リスク社会の風土論：人工知能時代に向けたリスクとリアリティに関する調査報告」、トヨタ財団 研究助成×先端技術オンラインカフェミーティング 2021、オンライン（査読無）

小野聡・熊澤輝一・寺田匡宏・松井孝典 (2021) 「人工知能によるリスク情報提供に対する信頼」、2021年度リスク研究学会年次大会、オンライン（査読無）

3. 主な経費

【学会参加費】日本地域学会、日本計画行政学会、日本シミュレーションアンドゲーミング学会などへの年会費や、大会参加費に充てた

【書籍代】現代数理統計学、統計哲学など、統計処理に関する各種書籍の購入に充てた

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

- 【科学研究費補助金】基盤研究（C）：令和2年度～令和4年度、代表、「ゲーミング・シミュレーションに基づく住民参加への「棋譜」の活用可能性」（20K12309）
- 【競争的資金】公益財団法人科学技術融合振興財団・調査研究助成「都市の水害からの広域避難を促進するゲーミングのための避難行動シミュレーション」
- 【その他の活動】第3期高島市まちづくり推進会議・専門家委員（滋賀県高島市）